



関西いのちの電話



天空の道（平成20年度鳥取県写真コンクール入賞作品）



「少し風が吹いて来たよう…」

関西いのちの電話 事務局長代行 八尾 和彦

4年前、事務局を退いた後、ビフォー・アフターではこんなにも違うものかと驚かされた。いつどこにいようが24時間いのちの電話に繋がっている自分から解放され、それは天にも昇るような気持だった。生活は規則的になり、体重は5キロ減り、健康体を取り戻した。いかに「いのちの電話」が自分の心と体に重くのしかかっていたかを思い知られたことを今思い出す。

その一方で相談員のみなさんに思いを馳せると、「いのちの電話はすごいところだ！」と改めて驚嘆し感動せざるを得なかった。毎年10名ほどの方が退務される。親の介護や体調を崩して休務される方もいる。しかし、それでもいのちの電話の活動は脈々と続く。関西いのちの電話は、1973年9月23日に開局して以来45年間、24時間365日絶えることなく活動を続けてきた。先輩から後輩へといのちの電話の「理念と実践」が引き継がれ、相談員仲間が互いに補完し合い、支え合ってきたからこそ続いてきたのだと思う。

そして、最初は「他者のために」と思って始めたことが、いつしかそれが転化して実は「私自身のために」活動して

いることに気づき、人として今もなお「心の成長」があることを知られた時、いのちの電話はとても奥が深く、永続的な存在となるのかも知れない。

ところで、人生には三つの坂があると言う。上り坂、下り坂、真坂（まさか）！私はこの3月末、予期もしない「真坂」に出くわし、4月から事務局に戻ることとなった。まるで天から「帰って来たヨッパライ」である。事務局では過去の経験から少しあは動けているとは言え、内心は今だに付いて行けてない。ここで自分自身をどのように落ち着かせばいいのだろうかと思い悩み、「いのちの電話」に電話したいくらい……であった。

しかしながら、あれこれ考えてばかりいて仕方がない。時代と社会は変化し、いのちの電話も決してそれと無関係ではない。せっかく「帰って来た」のだから、与えられた時間の中で共に課題と向き合い、そのプロセスを共有し、次の人たちに引き継いでいければいいのかなと…ようやくここにたどり着く。少し風が吹いて来たようだ。

関西いのちの電話 相談電話（24時間365日） ☎06-6309-1121
自殺予防いのちの電話 毎月10日 午前8:00～翌日午前8:00 ☎0120-783-556

